

平成22年5月28日
幼児期の教育と小学校教育の
円滑な接続の在り方に関する
調査研究協力者会議

保育現場から見る 子どもたちのスムーズな 移行について



○現在のイメージ

幼保

スタートライン

小学校

豊かな遊び

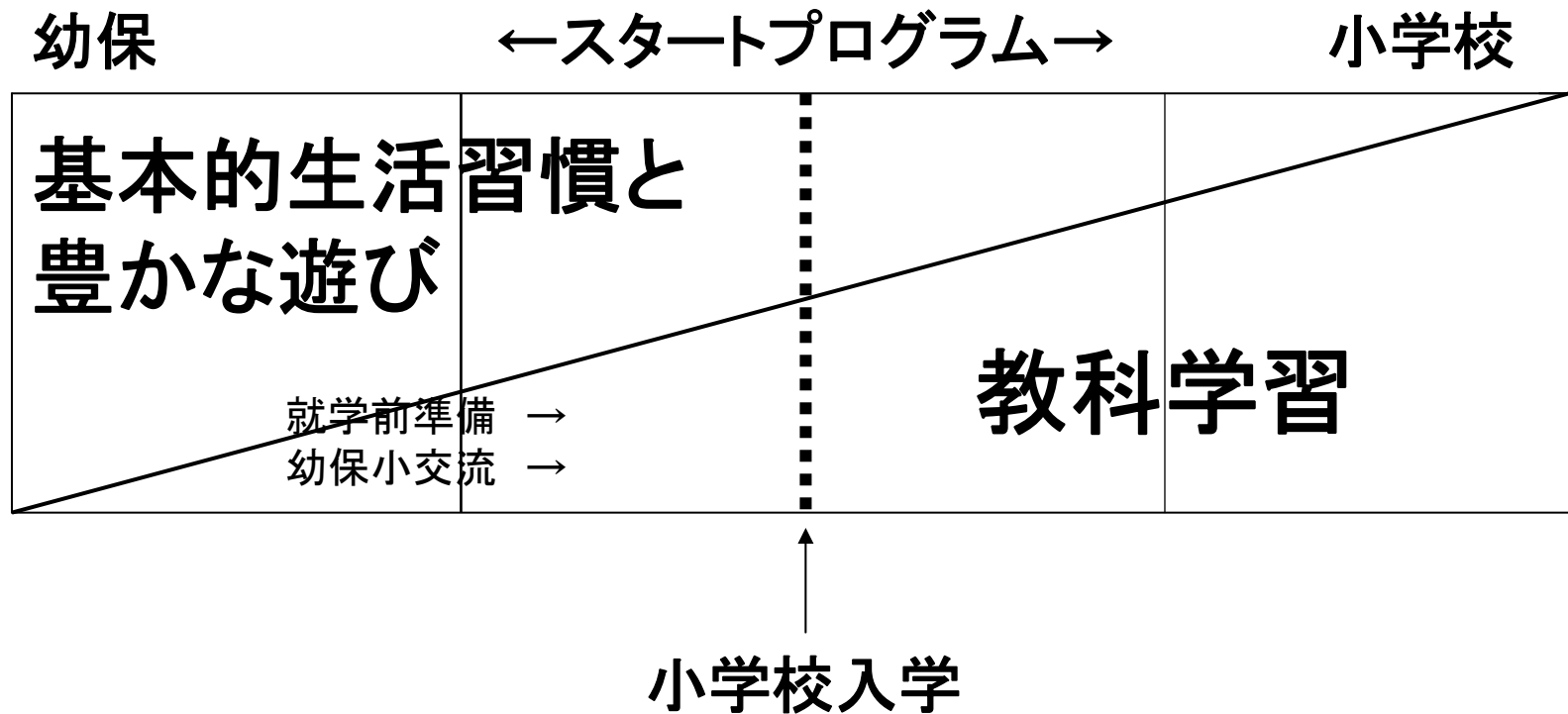
小学校の学習

就学前準備 →
幼保小交流 →

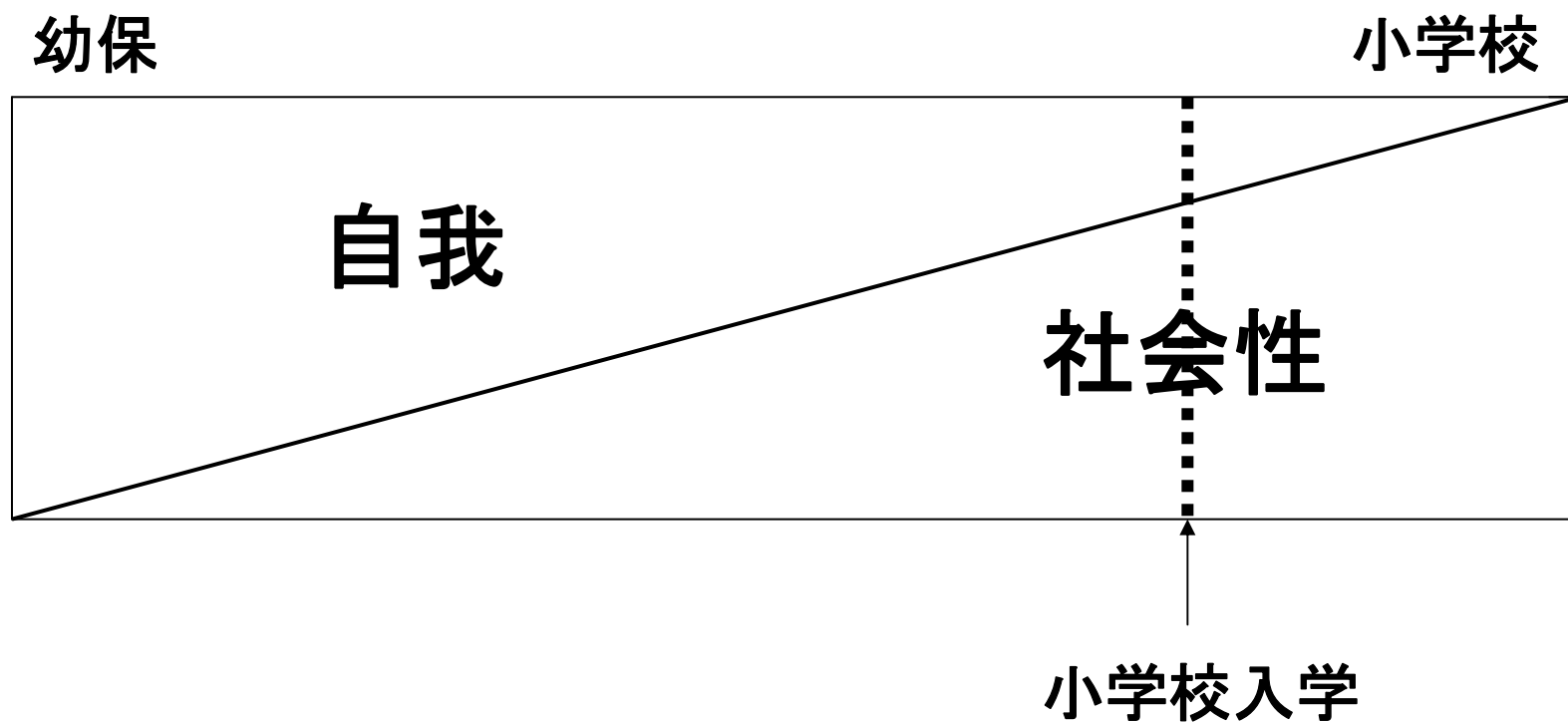
→ スタートプログラム
→ 小一プログラム(?)

小学校入学

○求められるイメージ



○園での育ちに置き換えると・・・



○現場から振り返る課題と提案

- (1) 制度面
(制度の壁)
- (2) カリキュラム面
(環境設定と選択授業の提案)
- (3) 意識面
(保育者・保護者・管理者)

○制度面から振り返る現状と課題

(1) 制度面

- ① 教員の異動決定事例から
(引き継ぎたくても引き継がない実情)
- ② 園児や家庭の個人情報取り扱い
(要録の限界)

(1) - 2

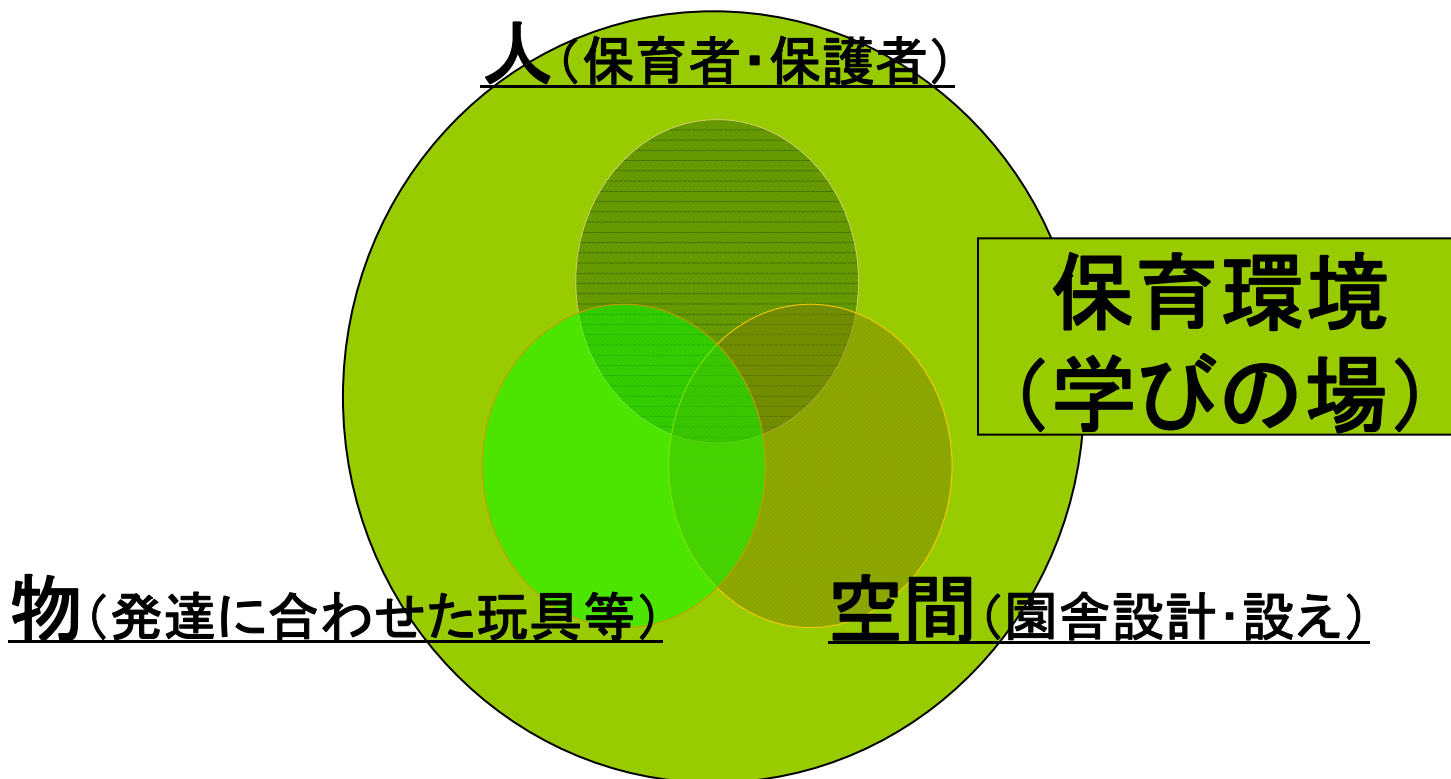
- ③園内でも発生する年度変わりの隔たり
- ④子どもの拠り所になるための職員交流
 - 教員の派遣や幼保職員の巡回
 - もたらされるスタッフの資質向上効果

(2)カリキュラム面

- ①人的環境による教育（保育）の限界
○低学年児童を人的環境のみの授業を
することの困難さ・・・



②環境設定による保育の取り組み



○子ども達が主体的に活動しやすい空間設定



③習熟度別緩やかな選択授業の提案

○幼保はオリジナリティへの対応として

- スタート時のつまずき解消

(その後に引きずる劣等感)

- ことによっては上級生アドバイザー？



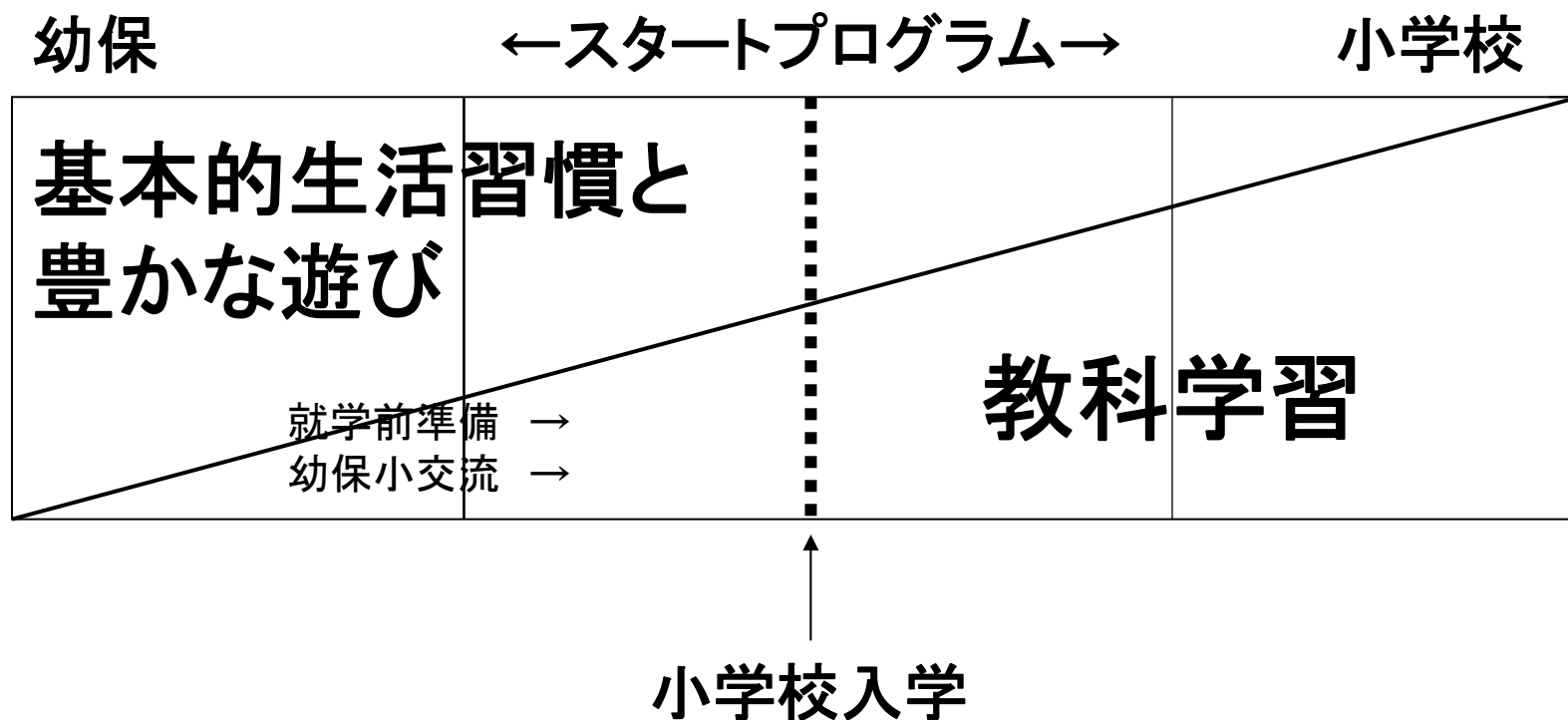
(3)意識(保育者・保護者・管理者)

- ①療育的課題と小一プロブレムといわれるものの整理
(教育の仕方や躰ではない個性の強さ)

②ティーチングからコーチングへ

- ・低学年児童の「教える」から「気づき」の授業へ（意欲と肯定観）
- ・保護者との意識共有
（自園の評価に見る課題から）

③質の高い遊びの要素から学びへの 移行と教職員間の連結期の意識変革



ご清聴ありがとうございました・・・

わくわくの森保育園

社会福祉法人ICA

〒230-0022

横浜市鶴見区市場東中町12-27

